

## 発行にあたって

近年、企業のデジタル化を推進するデジタルトランスフォーメーション（DX）が注目を集めています。企業の業務を刷新したり、イノベーションに挑戦するためには、既存のIT技術のみならず、人工知能（AI）等の新しい技術の活用が肝要です。データ分析で未来を見通す経営戦略から人手不足の現場の生産性向上まで、AIの活用可能性には限りがありません。しかしながら、米国や中国でIT大企業やAIベンチャーが次々に新しいアイデアやビジネスを立ち上げているのに比べて、我が国においては国や大企業での取組みも進んできたとはいえ、AIの社会実装は、さらなる加速が必要というのが実情です。

AIの実装を推進するためには、最新技術動向や国内外の取組みを企業の経営層や現場の方々に知って頂くことが第一歩と考えており、IPAでは2017年7月、AIの先進技術や利用動向などをとりまとめた『AI白書2017』を、2018年12月には、有識者の率直な提言、社会実装課題、中国動向などを含めた『AI白書2019』を刊行してまいりました。このたび、それらの内容をさらに深化し、企業の経営層や事業企画、現場の方々に活用いただけるよう内容を刷新した『AI白書2020』を発行する運びとなりました。

本書はまず、我が国の産業の問題やAIによる取組みの方向性をお伝えするため、AI白書編集委員と有識者による対談を冒頭に設け、日本の企業に向けた直截なメッセージを掲載しています。また、技術動向を全面的に刷新するとともに、利用動向、制度政策動向についてもAI導入の参考としていただけるよう最新情報を基にアップデートしています。さらに特集として、AIスタートアップを育てるためのエコシステム及びAI人材育成に関する課題と施策の現状についての調査結果を取りまとめています。

「2025年の崖」への取組みが喫緊の課題の今、本書をAIの理解及び現場やビジネスへのAI導入に活用いただくことにより、我が国におけるDXの実現につながることを期待しています。

最後に本書を取りまとめるにあたって、調査や執筆のご協力をいただいた皆様や、編集委員会において、ご尽力いただいた皆様方に対し、心から敬意を表するとともに、厚く御礼申し上げます。

IPA（独立行政法人情報処理推進機構）  
理事長

富田 達夫

